



2024年12月10日
東日本旅客鉄道株式会社

Suica の当たり前を超えます

～ Suica Renaissance ～

○JR 東日本は、中長期ビジネス成長戦略「Beyond the Border」に基づき、Suica をデジタルプラットフォームとするため、今後 10 年間にて Suica の機能を順次グレードアップします。Suica は「移動のデバイス」という今までの当たり前を超え、交通、決済だけでなく、地域のお客さまの様々な生活シーンにてご利用いただける「生活のデバイス」に生まれ変わります。

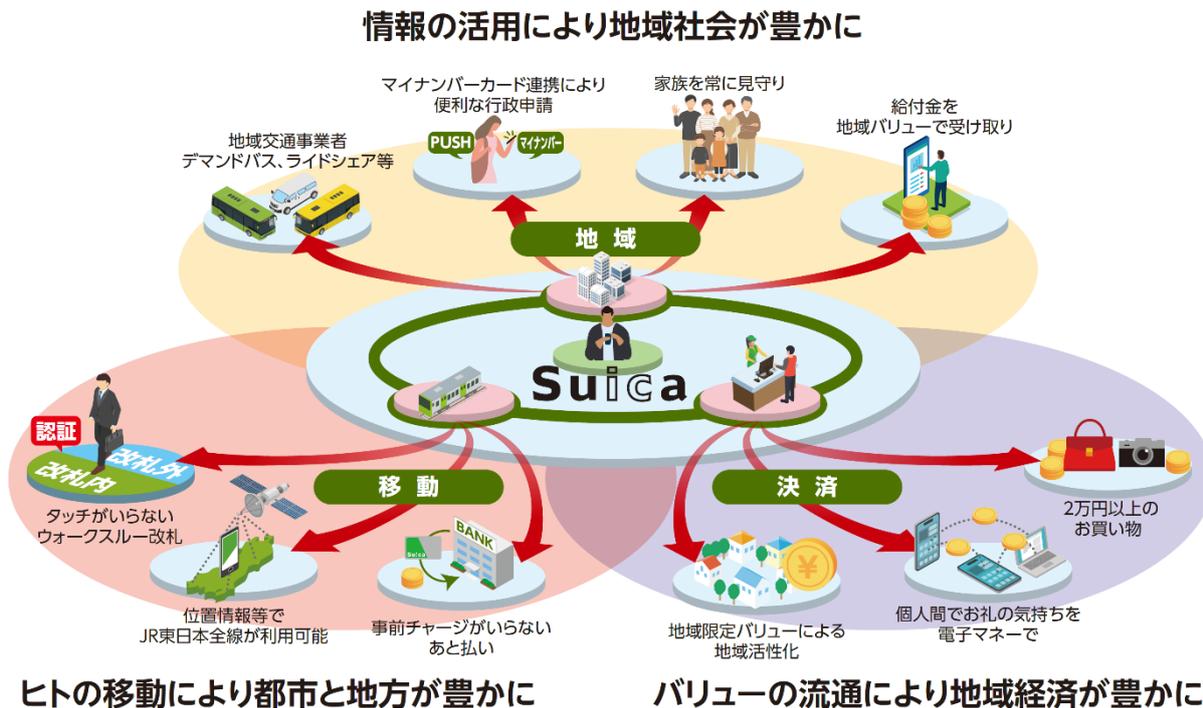
○2026 年秋頃にはモバイル Suica アプリによるコード決済機能などの新しい決済体験、2028 年度にはお客さまに応じた割引やクーポンなどのこれまでにない便利な移動体験の提供を進めるとともに、今後 10 年以内にはチケットや SF などのバリューをセンターサーバーで管理するシームレスで便利なサービスの提供を目指します。

○Suica はあらゆる世代のお客さまがご利用いただけるユニバーサルな「生活のデバイス」として、新しい当たり前を創り、お客さまに応じた体験価値（ライフ・バリュー）を創造し、「心豊かな生活」を実現します。

1. Suica の当たり前を超える

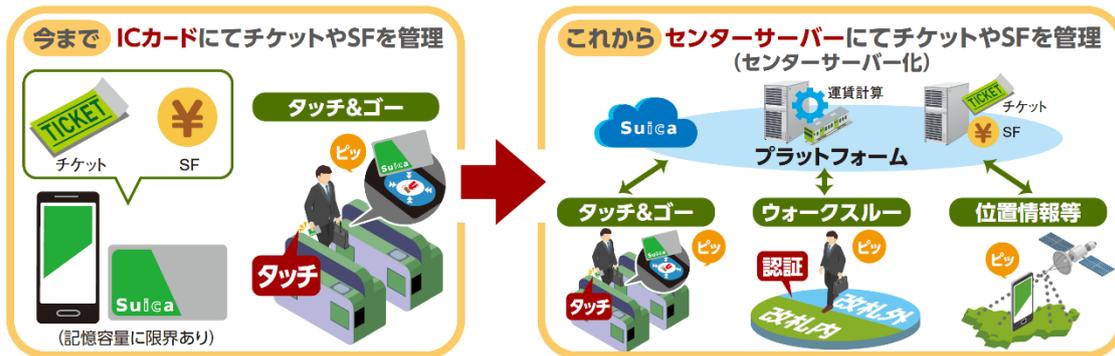
- ・今までの Suica の当たり前を超え、「Suica アプリ（仮称）」のリリースをはじめ、お客さまに応じた鉄道サービスや各種の決済機能の検討を順次進め、お客さまに不可欠な移動、決済、地域といった様々な生活シーンにおける新たな体験や DX の提供を目指します。

当たり前を超えて、心豊かな生活を創る



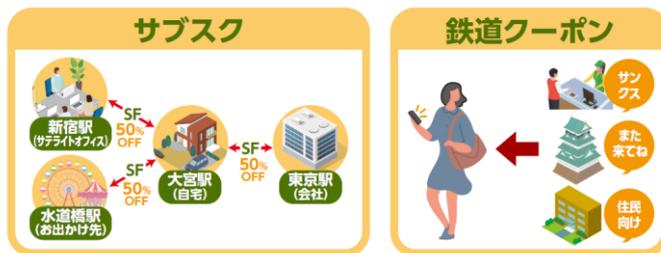
2. 今までの当たり前を超える

- Suica は今までの当たり前を超えて、心豊かな生活を創るためにチケットや SF のバリューをセンターサーバーで管理する新しいプラットフォーム型のシステムへの移行「センターサーバー化」を順次検討していきます。



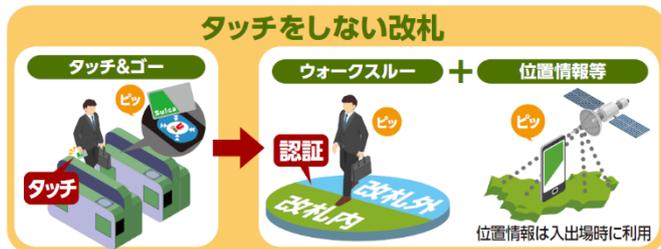
(1) 鉄道利用は固定的という当たり前を超える

- 鉄道利用は定期券と SF という当たり前を超えます。2028 年度には、新しくリリースされる「Suica アプリ（仮称）」においてセンターサーバー管理型の鉄道チケットの提供を開始します。たとえば、毎月 3,000 円を払うことにより、自宅最寄り駅である大宮駅を起点として、どの駅でも運賃が 50%割引となるサブスク商品（割引上限あり）、鉄道の日などの記念日、駅ビルやイベントでのお買い物により配信される鉄道クーポンなど、これまでになく便利なサービスがご利用いただけるようになります。



(2) 改札はタッチするという当たり前を超える

- 鉄道でのご利用にはタッチが必要という当たり前を超えます。将来的にセンターサーバー化により、タッチせずに改札を通過できる「ウォークスルー改札」、改札機がない駅での「位置情報等を活用した改札」の実現を目指していきます。



(3) Suica 利用エリアという当たり前を超える

- Suica は利用エリアのみで利用可能という当たり前を超えます。2027 年春頃には、首都圏（長野含む）、仙台、新潟、盛岡、青森、秋田の Suica エリアを統合し、たとえば、Suica で常磐線を上野から仙台までご利用いただくことが可能となります。また、Suica 未導入エリアにて、モバイル Suica アプリで購入できる「スマホ定期券（仮称）※」がご利用いただけるようになります。※ モバイル Suica アプリで定期券の画面表示にてご利用可能
- 将来的には「位置情報等を活用した改札」の実現により、当社全線で Suica がご利用になれます。



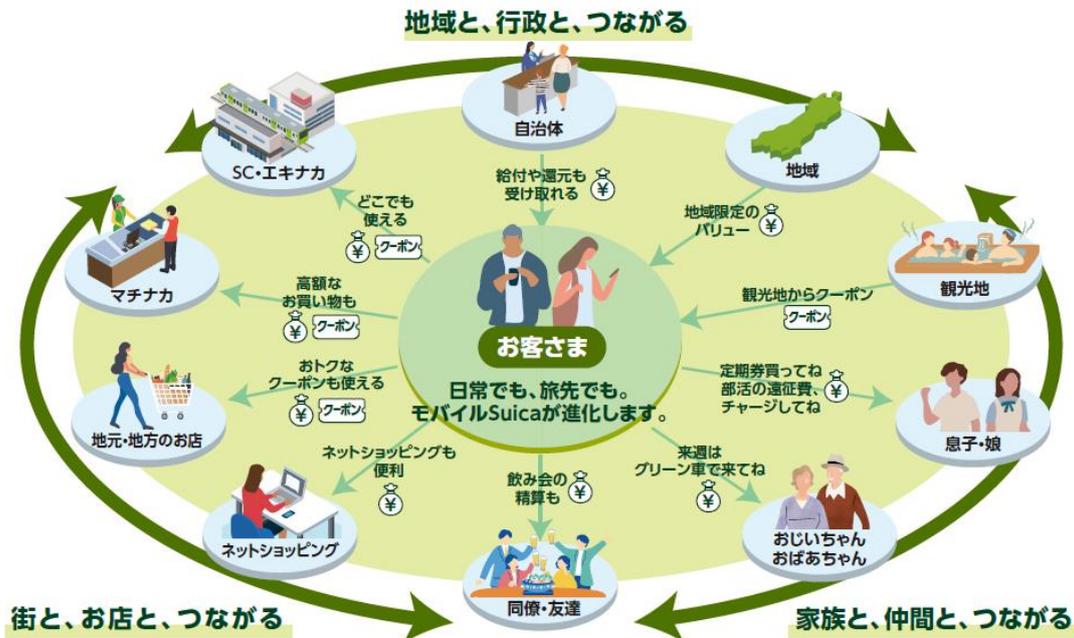
(4) 事前にチャージという当たり前を超える

- 事前に Suica へのチャージが必要という当たり前を超えます。センターサーバー化により、現在広くご利用されている SF 機能に加えて、将来的にはあらかじめお客さまのクレジットカードや銀行口座と紐づけることにより、チャージする必要のない「あと払い」の実現を目指していきます。



(5) 少額決済という当たり前を超える

- ・ Suica が便利なのは少額決済だけという当たり前を超えます。2026 年秋頃には、モバイル Suica アプリを大幅にリニューアルし、Suica ならではの簡単 & 便利なタッチ決済に加え、Suica の上限額（2 万円）を超えるお買い物にもご利用いただけるコード決済機能、例えば家族、お友達同士でバリューを送ったりする電子マネーを送る&受け取る機能、お得にお買い物いただけるクーポン機能、地域限定のバリューの発行など、様々な機能が追加される予定です。
- ・ これにより、モバイル Suica はさらに便利になり、お子様からお年寄りまで、「日常も旅先も、これさえあればいい」、そのようなユニバーサルな決済ツールへと進化していきます。



3. 新しい当たり前を創る

(1) 各地域に根差した新しい Suica を創る

- ・ 現在、自治体と当社の MaaS の連携にて実現している移動と地域の DX モデルを地域連携 IC カードとの統合により拡張し、各地域に根差した「ご当地 Suica（仮称）」を創り、地域の生活における新しい当たり前にしていきます。このサービスは「Suica アプリ（仮称）」をベースとし、マイナンバーカードとの連携により、地域内の生活コンテンツ、サービス（地域割引商品、デマンドバスなど）、商品券や給付金の受け取りや行政サービスの利用を実現します。これによりあらゆる生活シーンを DX し、地域がかかえる課題を解決していきます。



(2) お客様の生活に徹底的に根差した Suica を創る

- ・ 移動や生活シーンにて Suica を利用したデータを活用することにより、たとえば旅行時に新幹線が到着したらタクシーが待っていたり、帰宅時にお風呂が沸いていたりする「おもてなし」サービスや、お客様の健康状態に合わせた食事のレコメンドをする「お気遣い」サービスを実現することで、広くお客様の生活をサポートします。



(3) 訪日外国人がシームレスにご利用できる Suica を創る

- ・ 2025年3月に海外からのお客様向けの「Welcome Suica Mobile」(iOS) サービスを開始します。日本入国前にアプリのダウンロードや SF チャージを可能[※]とし、成田及び羽田空港から JR 線や東京モノレール他の鉄道各線をシームレスにご利用いただけます。 ※ 各国の法規制により一部機能が制限される場合があります
- ・ さらに 2025 年秋には「JR 東日本の新幹線 e チケット」や「在来線特急のチケットレスサービス」を、2026 年春には中央線をはじめとした普通列車グリーン車もこのアプリから簡単にご利用いただけるようグレードアップします。
- ・ 将来的にはセンターサーバー化により海外からのお客様にもウォークスルー改札や当社全線での Suica のご利用が当たり前になるようになり、更なる利便性の向上を行っていきます。



4. 他交通事業者への Suica サービスの提供

- ・ 2024年11月にモバイル Suica にて新たに開始した「東京モノレール区間の定期券（通勤定期券）」と同様に他交通事業者の定期券発売サービスを行っていきます。2026年春頃には通学定期券への拡大も行っていきます。
- ・ 当社は他交通事業者と協調、共生を行い、社会における持続可能な交通系 IC 乗車券システムの実現に貢献していきます。そのためにセンターサーバー化により Suica サービスを共通プラットフォームとして構築し、他交通事業者のシステム導入や更新時におけるコストを抑え、ニーズに応じてご利用いただけるようにしていきます。
- ・ 将来的にはこれらの Suica サービスを、モビリティを含めた TOD・スマートシティ開発の 1 つの機能として位置づけ、海外マーケットへの拡大を目指していきます。

- サービス内容は変更となる可能性があります。画像はイメージであり、今後変更になる可能性があります。
- 必要に応じて各国の各種法令に基づき、手続きを行っていきます。また、サービスの検討においては個人情報やプライバシーの保護を配慮していきます。
- Apple、Apple のロゴ、Apple Pay、iPhone、Apple Watch は、米国および他の国で登録された Apple Inc.の商標です。

Suicaの当たり前を超える

地方

現在
計14カード
29事業者
約2,800台

2025年春以降
Suicaが長野へ拡大

2024年12月14日 地域連携が野沢温泉へ拡大

2025年3月1日 地域連携が長野地域へ拡大

2026年春 地域連携が松本へ拡大

2027年春頃
Suicaエリアが1つに

仙台・青森・盛岡・秋田エリア
新潟エリア
首都圏エリア (長野エリア含む)

東日本エリア運賃

2027年春頃

Suica未導入エリアで
スマホ定期券(仮称)を見せて利用

2028年度

センターサーバー
(鉄道チケット)

2028年度以降

マイナンバーカード連携

ご当地Suica(仮称)
Suicaで各地域のDX

2028年度

Suicaアプリ(仮称)

2028年度

サブスク SF 50% OFF
新宿駅(サブスク)
大宮駅(自宅)
水戸駅(お出かけ先)
東京駅(会社)

鉄道クーポン サンクス また来てね
住民向け

お客さまに応じた柔軟な鉄道商品
タッチ情報のリアルタイム連携

今後10年以内

センターサーバー
(バリュー)

位置情報等

ピッ

JR東日本全線が利用可能

あと払い

認証

改札内

ウォークスルー改札

東京圏

海外のお客さまの移動がシームレスに

2025年春

- アプリで発行
- クレカチャージ
- 新幹線乗車(自由席)
- アプリで情報収集

2026年春までに

- 新幹線乗車(指定席)
- 在来線特急
- 普通列車グリーン車

2026年秋頃

コード決済で
2万円以上のお買い物

現在